

平成 29 年度【第 6 期】第 1 回小俣地区地域審議会 会議概要

- 1 開催日時 平成 29 年 4 月 18 日（火）午後 7 時～午後 8 時 40 分
- 2 開催場所 伊勢市小俣公民館 第 1 会議室
- 3 議事内容 (1) 公共施設マネジメントの取り組みについて
(2) 今年度の活動について
(3) その他
- 4 出席委員 織家貞雄委員、正住興彦委員、岩尾昇平委員、大北喜代壽委員、
太田陽三委員、越智晶俊委員、楠畑忠雄委員、坂村春美委員、
中川欣也委員、永多聡子委員、西出剛委員、廣政男委員、
馬瀬洋子委員、村田恵子委員、吉田進一委員
- 5 欠席委員 奥村節夫委員、楠畑忠雄委員
- 6 出席職員 情報戦略局参事（情報調査室長）、情報調査室主幹、同主査、同主事
小俣総合支所長（生活福祉課長）、同副参事、同主幹

7 議事概要

(1) 会長あいさつ 日ごろの活動御礼及び本日の会議趣旨の説明

(2) 公共施設マネジメントの取り組みについて

- ・情報調査室から事前配布資料に基づき説明。

人口減少、少子高齢化社会の到来に基づき、老朽化する将来的な公共施設のあり方に関する「施設類型別計画」策定のための事前意見聴取の目的で行うもの。

(委員による質問・意見)

- ・行政として民間の不動産活用（テナント）等の方策を考えているのか。

⇒建物とサービスを別々に考え、その組み合わせにより 20 通りの見直し区分を設定している。その中に民間施設の活用の考えは持っている。

- ・近年伊勢病院の例では、周辺施設統合という考え方がなされていなかった。施設の統合や合理化を十分考慮して進めて欲しい。
- ・各種交通手段の利用が難しい高齢者は徒歩での利用となることも配慮して欲しい。
- ・名古屋市における戦後復興計画は現在では先見性があったと思われる。本市においても 30 年先を考えた計画という部分は大変評価できる。堤防や水門などの災害時に必要なインフラの整備は、50 年後を見据え十分に考え、直近の財政状況のみに左右されずに、毅然たる態度で進めて欲しい。
- ・合併の意義や効果が十分に反映されるように検証、策定して欲しい。
- ・5 つのエリアで進めていくのは良い。
- ・当審議会発足当初からの課題として宮川左岸区域全体での発展が望まれており、過去様々な提言をしてきた。支所を全部廃止して、総合支所一本にしていく。そして、地域にある施設の機能を総合支所に集約化し、不用になった施設は廃止という考え方をしていただきたい。また、民間施設も活用し、幼稚園や保育園、老人ホーム等も民間へ移管していくべきだと思う。福祉施設も昔は民間がなかったため公営であったが、今は民間も増えてきているので任せるべき。

- ・小中学校の統廃合、他自治体の先例事案を参考にしているかどうか。
- ・庁舎の前にハローワークや法務局とかがあがるが、国県の施設と同居できないだろうか。
- ・公営住宅の高層化などの考えはないのか。

⇒担当課で長寿命化計画を策定しており、その中で基本は残さないとし、数も減らしていくとしている。

- ・行政改革は、決めたならば思い切って実行すべきもの。今回のように地元の各種団体などから同意を得ることができたら思い切って実行していただきたい。
- ・人事異動や首長が変わる度に計画が変更とならないように努めて欲しい。
- ・様々な意見があるが、今後もそれらの検討結果について周知して欲しい。

⇒最終的には議会の承認を得ることとなるが、市民の皆様にはパブリックコメントという形でお示ししたい。今般のアンケートのご回答についてもお願いしたい。

- ・他に意見もないようなので、この件については以上とする。

(3) 今年度の活動について

小俣総合支所長から、昨年度の自主的な勉強会開催、伊勢志摩サミット後の伊勢市の現状、防災対策にかかる危機管理施設視察、町内小中学校訪問による教育現場の現状把握等々の活動に対する御礼及び本年度の活動について昨年同様に行いたいとの意見あり。

会長からは、今年度は福祉関連施設、市内地区で唯一人口増加している小俣地区の保育所問題、待機児童、学童保育などの現状を把握し、また高齢者の生活にかかる課題については町内施設の視察も希望し、今後の活動・提言に繋げていきたい旨の発言あり。今後は会長、副会長と協議しながら調整、決定し、案内することに決した。

(4) その他

事務局から奥村節夫委員の3月8日付自己都合解嘱の希望に接し、会長、副会長との協議の結果、承認することに決し、また委員の追加については、委員数に特段の決めが無いことから追加委員の募集は行わず、現行のまま第6期を運営することで出席委員全員の承認を得た。

以 上